

Written by Dr. Watanabe

六本木の今昔

『六本木の今昔』 平成 22 年 4 月 20 日

私が開業したのは昭和 43 年ですから、もう 40 年以上経ったことになります。その間の六本木の変わり様と目まぐるしい程です。

今はビルが乱立し、国際的にも名の知られる六本木も、その当時は名前ほどにはビルもあまり無い、商店街も飲食街もたいしたことのない住宅地だったのですから。この六本木は、戦前には兵隊の街、つまり現在の国立新美術館やミッドタウンは麻布歩兵連隊であり、昭和 11 年にその連隊が起こした事件があので二・二・六事件です。終戦直後は接収されて米軍の基地となり、六本木は米軍の街と変わりました。

バーやクラブや怪しげな店ができ、外国人が集まり、更に彼らに接近する日本人も集まって来たのです。これが六本木の原点ですね。

昭和 34 年に米軍施設が返還され、防衛庁や東京大学生産技術研究所（東大生研）になりましたが、テレビ朝日が六丁目にできたのがその頃です。それに伴いテレビ関係者やプロダクションや芸能人、それを追う若者が集まるようになって、加賀まりこや大原麗子で知られるいわゆる「六本木族」が出現します。アン・ルイスの「六本木心中」がヒットしたのは、その数年後のことでしょうか。

六本木の街が大きく変わりだしたのは、昭和 39 年に東京オリンピックの為に首都高速が走り、地下鉄日比谷線が開通してからです。都電は消え、道路は大きく拡張され、その街路に沿って徐々にビルが立ち並び始めました。（最近では大江戸線もできましたね。）開業してまもなく起きたのが昭和 45 年の第二次安保闘争です。防衛庁をテモ隊から守ったのは警察機動隊だったのですからオモシロイですね。その頃三島由紀夫事件も起きています。

それでも当時の六本木は、ビルはそれほど無くて今のみずほ銀行は木造二階建てでしたし、俳優座も木造二階建てだったのです。拡張された六本木通りの上にただ高速道路が走っていました。しかし、ほどなく六本木は急速にビル化して行きます。商店や飲食店やクラブやバーがどんどん増え、急速に夜の街としての形を整えて行きます。路地裏にまでビルができ、日の暮れとともに六本木には人があふれるように集まり、一番電車が出るまで続くのです。

1970 年代にはディスコクラブやゴーゴークラブが流行り、1980 年代には六本木 WAVE が出来て、音楽文化が盛んになりました。街路には外国人がやたら目につくようになって行きます。

このまま歌舞伎町のような夜の街に成り果てて行くのかと想像していたら、六本木六丁目が再開発され、広大な六本木ヒルズが出現しました。

新たな六本木の変貌の始まりで、最新の情報と金融の発信の街として別な形を示し始めたのです。その後続くようにして防衛庁はミッドタウンに変わり、東大生研は国立新美術館に衣替えしました。一丁目には住友泉ガーデンタワーができ、三丁目は高層マンションが建設中です。

今や六本木は夜の街、歓楽の街以外に様々な顔を持っています。金融の街、IT 企業の街、情報発信の街、そして森ビルには森美術館、ミッドタウンにはサントリー美術館、その隣には国立新美術館、更にはガーデンタワーにも美術館があります。つまり文化発信の街でもあるわけです。

そしてもう一つ付け加えれば、ロシア大使館をはじめ、たくさん大使館もこの地には存在しているのです。

この複雑な顔をもつ六本木が、今後どのように変貌発展して行くのか、ある意味で日本そのものの縮図なのかもしれません。